夕刊
磐城新聞
一月七日
（日曜祭日翌日休刊）
定價 一ケ月金五拾錢 郵送料金六拾錢
廣告 一行金拾錢 社告 一行金五拾錢
編輯兼發行人 木村甚弥 磐城新聞社
磐城新聞社

滿蒙問題に就て

鄉土出身一將校（寄）

（三）

然るに今日迄は條約には（大正四年）若干訂正したもチャント定められてあり乍ので我滿蒙政策の基調をなら我國民の居住と營業とはすものである、滿蒙が我國の道慨乍ら自由でなく且安全生存の爲緊要不可缺の地域でなかつた、であるから我たる以上此の權益も亦我國國としては此の機會に於て防、經濟上重要なる價値を完全なる條約の履行を强調有するものであることは論せねばならぬ。　を俟たぬ。

我國としては滿洲一領の　然らば滿蒙に於ける特殊目的はない、此點は國際聯權益とは如何なる事であ盟に對し明らかに明言してかと云ふならば概して下のおる所である、武力占領も如き事項である。しない領土にもしない、只

1 關東州租借地
2 中立地帶
3 南滿洲鐵道附屬地
4 南滿洲鐵道
5 安奉鐵道
6 吉長鐵道
7 其他の鐵道利權
8 駐兵權
9 南滿洲及東部內蒙古

今日迄現在する條約取極め露國の既得權を繼承し其後等が確實に行はれさへすれ（大正四年）若干訂正したもば其れで十分である、そうの、武力占領も なれば朝鮮及關東洲を足場にして滿鐵を骨幹とし居住營業並土地の利用に關する自由に依り滿蒙に於ける經濟的發展は十分に期待することが出來るのである、故に此問題を解決することが今日滿蒙問題解決の本質であり其內容である。

滿蒙に於ける我特殊權益並排日侮日

滿蒙の特殊權益なる言葉は人口に膾炙し事苟も滿に關して論ずるときは必ず口にする言葉である。

特殊權益とは特殊の權利と特種の利益との合稱である、特殊の權益とは相互に締結せられたる特殊の條約であつて他國の均霑を許さざる一國特占の權利である特種の利益とは特殊權益を行使する結果として自然的に得らるる所の利益である而して相手國若くは第三國が之れを侵害することを許されぬ現實の利益である。

抑々我國の滿蒙に於ける特殊權益は日露戰爭の結果

1 關東州租借地
2 中立地帶
3 南滿洲鐵道附屬地
4 南滿洲鐵道
5 安奉鐵道
6 吉長鐵道
7 其他の鐵道利權
8 駐兵權
9 南滿洲及東部內蒙古
10 戰死者墳墓及忠魂碑保護
11 礦山利權
12 鴨綠江森林濫伐權
13 間島に於ける鮮人雜居權

等に關するものである左に其主要なるものに就て二、三說明を加へて見よう

關東洲租借地

關東洲租借地は日露戰爭の結果に依り露國の權利を繼承したもので日清戰役後三國干涉によりて還附した遼東半島に比すれば猫額大の地に過ぎぬが我國の滿蒙發展の立脚地である

租借期限は僅かに二十五年であつて大正十二年には滿期となるべきものであつたが大正四年日支交涉に依つて之を九十九年に延長したものである。

近時支那人は頻りに旅大回收、滿蒙奪回などと遠吠を初めた（張學良の如きは畢生の仕事として日本の勢力を滿蒙から驅逐すると傳語した）其遠吠をして居る間はまだよいが誰かケシカケル者があると足許に近づいて來て吠え立てる許りでなく遂には噛み付く昨今の滿洲の狀態が其れである。

戲歌鈔

島田忠夫

○大津町の某國手に
おほどかに神さびゐます君が顏けだしや我れの神
とならしも
八雲立つ出雲の國の神さびて我れにより嬬めとらせ給へ
わが顏は深草の野に並め馳する馬より長き長おもてにて
吾が嬬は望の月夜の圓かなる丸きおもての丸きをたまへ
八雲立つ出雲の神の君のへに長き面と丸き面と
風流人の君がさがせる妹の面せめて白かれ畠ごぼうより

時代警語

○天は自ら働かざるものを助くるものに非ず（ソフォクリース）成功は我等が勞力の代償である、報酬である、勞力も拂はずして成功の榮を擔はふとするのは負者の世迷言であると云はねばならぬ「無には無を與へよ」といふのは蓋し自然の法則でもあり人事の不可抗の眞理である……

夜の村（童謠詩）

山口正夫

蟲も鳴かない
肌寒さ
流星一すじ
きえました
夜學もどりの
桑畠
ひゐびを霜に
冴えた空
風にまじつて
ひびきくる
山川の瀨音
きこえます。

寄贈書目

ROMJI（一月號）一部 金二十錢、東京市麴町區丸之內三丁目十二番地ローマ字ひろめ會發行

拈華微笑

◇勇ましい手紙。チチハルの卷が了らぬに錦州篇近く封切りカナ◇遁れ一礫の主が

◇稅金の調達で心を粉炭にす

◇各町內の新年會積極內閣の出現で例年以上メートルが上りそう

◇町の玄關だ

◇一度に寒くなりそう。貧乏の上塗りに風ひかぬよう

社會の今日

○既にして一壺は空し松の內　双葉

講談

俠艶女長兵衛

東京 斯波南史（魚崎潮畫）

（一〇二）

三五郎はズット入つた。

三『長屋と云ふ奴は內緒話しには困るが壁一重此方の話しが向ふへ聞えはしねへか』萬『大層氣にするなア右は左官屋さんで仕事に出たし、左はのり賣婆アでつんぼと來てゐる、聞こえる氣支はねへ大丈夫だ！』三『然うか、實は大變な事が出來たのだ、お前達二人に留守以來兄弟分に成つてゐる、滿更話さねへで行くのは心殘りだから、夫れで話しに來たんだがな』萬『へヱ、餘ッ程大變なことが出來たと見えるな、話さねへで行くのは……何んて、何處かへ行かうてへのだな』二『兎も角も之れを見て呉れ』ポンと投出したのは前大兼光の一刀でございます橋場の喜太郎が喜『ヤッ、是れは親分の差料ではねへか』三『サム其通り親分が大事にに掛けてゐた備前大兼光だ！』喜『是れを兄貴どうしたのだい』三『マア默つて抜いて見て呉んな』喜『然うかい』と云つて喜太郎が大兼光の刀を採つてズルリッと引拔いた喜『オヤッ』と云ふと萬助も眼を寄せる喜『是りやア大層油が乘つてゐるぢやアねへか、何だか曇つたところは人でも斬つたらしいな』三『其の通りだ、是れで一人バッサリ遣つた、何うも其の切れ味の好いの何んのッて、氣が一日の呑吐五千貫も一緒に行つたのか』三『夫りやア見てゐた、親分の腕は大したものだなア』喜『夫りやアいけねへ親分も親分なら、兄貴も兄貴ぢ郎だけは放し度くねへ、當分手許に居て呉れと手放しをなさらなかつた程だ、俺はチャンと心を極めて、お前達と水盃に來たんだ、相手を殺したなア此の大兼光血のりの殘つたのが第一の證據、是れを持つて恐れながらと出て、時次郎を殺したなアわつちだと名乘つたら、よもや親分に難義は掛るめへ、サア縛られに往く水盃を……』。

ラヂオ

…八日（金曜）…

仙臺JOHK

△前七、〇〇A ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象通報
△五、〇A 陸軍始觀兵式狀況 代々木練兵場より中繼
△正午 時報
△後〇、〇五 俗曲
△〇、四〇A ニュース 氣象通報 告知事項
△三、四〇A 氣象通報
△四、〇〇A ニュース
△五、四五 今晚の番組豫告
△六、〇〇A（子供の時間）お話（滿洲とは）金子義男
△六、三〇A 運動講座（ラグビー早わかり）河西三省
△七、三〇A ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告
△七、三〇 講演（滿洲駐劄師團を巡して）第二師團參謀陸軍步兵中佐天谷直次郎
△八、〇〇A ラヂオドラマ（三人）國木三郎作 K懸賞當選作
△八、五〇A 歌澤（曉の鶏聲、松竹梅）
△九、一〇A 講談（清水一角）一龍齊貞山
△九、四〇A 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告 積雪量

市原病院
院長 市原卯太郎
平町田町電一一四

診療時間 夜
胃腸 内科 十二指腸 蛔虫 専門 内科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 専門 外科部
松村醫院 胃腸 性病 外科 醫院
（平南町電話一〇一七番）

恭賀新年
四倉行乘合組合
電話新設御披露 スグイクヨ 電話五九四番

御披露
御料理三品付
上酒一本、藝妓二本ニテ 壺圓五拾錢 何卒舊ニ倍シテ御光來ノ程ヲ
（一月一日ヨリ向フ二十日迄）
四倉町元山ノ湯 沖見亭

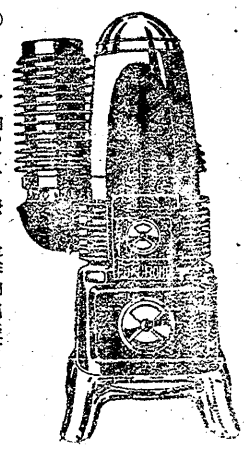
吉田眼科病院
平町紺屋町

ウエル萬年筆
ウエルの金ペンは彈力形狀共に申分なく殊に尖端のイリジウムは其の硬度最高にして永久の御使用に耐へます。
（東京府商業奬勵館試驗部證明）
ウエル萬年筆 ライトインキ 代理店
文 魁文堂
平町字搖槌小路 電話三一三番

耳、鼻、咽喉科 氣、管、食道科 專門
平町南町（電一〇七番）
大和田醫院
大和田郡司
（自炊の便あり）

金輸出再禁止と三井の大奉仕
金輸出再禁止に伴ひ商品市價は大暴騰を來す事と存じます。弊店にては幸ひに安價品豐富に仕入れ置きましたから平素の御愛顧に報ゆる爲此際値上げ致さざるは勿論在庫品は一層お勉め致す覺悟に御座ひますから年末年始の御用は何卒三井へ御用命の程偏にお願申上げます。
三井吳服店

◎石炭經濟ノ理想的ストーブ
ソレハ石炭商ノ立場ヨリ多年研究試驗ノ結果
フクロクストーブニ優ルモノナシ
◎ストーブ御買入ノ際ハ是非御相談下サイ
カタログ持參御說明申シ上マス
電話一三七番
阿部石炭商店



冬の洋服
御召替の節となりました皆樣の御氣に召す品を豐富に取揃へて御座ります
組目サーヂ脊廣……12.00より
ウヲステッド脊廣……11.00より
黑サーヂ立襟上下……5.30より
オーバ……4.50より
おかや洋服店 平二 電203

貸切は●●親しみあるサービスを以つて知られたる！
尼子タクシーへ電六四〇番
主任 澤正路

◆◆◆内臟外科 外科一般 花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院
看護婦募集

め そ 井
大衆向うな井
特上井
蒲燒（一人前）
金參拾錢
金參拾五錢
金五拾錢
金五十錢
右繁店特々の勉强振り御試食の程を御願申上奔
江戸川うなぎ食堂
平館前通り 電話六七七番

入院隨意（自炊の便あり）
外科 X光線 專門 科
平南町
上田醫院
病室完備（電話一二九）

本社の慰問に對する謝狀一束

滿洲から 到底筆舌に悉くされぬ、チチハル入城迄の經過

郡からも二名の戰死者を出す

小名濱町出身　馬上茂君

——出動以來何事も無く元氣で敵と戰ふ事の出來たのは之卽ち皆々樣の力であります、內地より磐城新聞迄下され何とも御禮の申樣がありません、我等は內地よりの便りが

一番樂みであります

力であります、こう云ふ郡に生れたのが一番仕合な我等であります、之から見ても我等は敵軍と戰ひ必ず勝ち皆々樣に安心させねば顏向けが出來ませんくらいであります、我等出動しても幾十日と經ちました、奉天長春、吉林と好敵と云ふ敵に逢はず一時長春の或る學校に宿營し居りました事稍々一日其內一大隊は

出動命令で江橋方面

に向ひ出發した、我中隊も四五日遲れて江橋方面に向ひ出動した、江橋に行く中は右見ても左見ても家一つもなく驛と驛の間は六七里

又出動ある事でせう

滿洲の土地より皆樣の幸福を御祈りして居ります。

氣で敵と戰ふ事の出來たのは之卽ち皆々樣の力であります、內地より磐城新聞迄下され何とも御禮の申樣がありません、我等は內地よりの便りが

一番樂みであります

力であります、こう云ふ郡に生れたのが一番仕合な我等であります、之から見ても我等は敵軍と戰ひ必ず勝ち皆々樣に安心させねば顏向けが出來ませんくらいであります、我等出動しても幾十日と經ちました、奉天長春、吉林と好敵と云ふ敵に逢はず一時長春の或る學校に宿營し居りました事稍々一日其內一大隊は

出動命令で江橋方面

に向ひ出發した、我中隊も四五日遲れて江橋方面に向ひ出動した、江橋に行く中は右見ても左見ても家一つもなく驛と驛の間は六七里

又出動ある事でせう

滿洲の土地より皆樣の幸福を御祈りして居ります。

我等中隊は騎兵隊と

共に敵騎兵と戰ひ十一月十四日の戰ひは我中隊で一名大隊本部で二名の戰死しました、この時騎兵にても二名戰死した、一名は佐川泰うの便りが

一番樂みであります

郡の西牧君が戰死を遂げました、之より